

平成15年度～平成19年度

私立大学学術研究高度化推進事業  
学術フロンティア事業推進事業

# 市民と創る生涯学習

地域に拓かれた大学を目指して



生涯学習社会貢献センター



聖徳大学 生涯学習研究所

平成 15 年度～19 年度文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業  
「学術フロンティア推進事業」中間報告資料

**市民と創る生涯学習  
地域に拓かれた大学を目指して**

平成 15 年度～平成 17 年度

SEITOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

聖徳大学 生涯学習研究所

## はじめに

本学生涯学習研究所では、私立大学高度化推進事業 学術フロンティア推進事業が平成 15（2003）年に採択された。

研究テーマ「生涯学習の観点に立った『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的な研究」は、極めて今日的な課題であり、そのアプローチも多角的で多様なものが考えられている。私たちは、聖徳学園が有する教育資源の活用や地域の協力団体等との連携を前提として、研究・検討が可能と思われる 5 分野において研究・検討している。

本書は、これまでの活動研究の一端を、項目のみを記録しているものである。最終年度の平成 19（2007）年度には、さらに研究の質量ともに充実させることを誓って、本研究を継続発展させていきたい。

本プロジェクトに関与していただく大勢の皆様とともに、今後とも、より積極的な研究・実践を推進する計画である。

聖徳大学生涯学習研究所  
所 長 福 留 強

# 市民と創る生涯学習 地域に拓かれた大学を目指して

## 目 次

- (1) 学術フロンティア推進事業の研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要・・・・・・・・・・ 1
- (2) 学術フロンティア推進事業の研究組織・・・・・・・・・・ 6
- (3) 「生涯学習社会貢献センター」研究施設等・・・・・・・・・・ 9
- (4) 研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等・・・・・・・・12
- (5) 学術フロンティア推進事業の実践・・・・・・・・・・ 22
- (6) 学術フロンティア推進事業の研究成果・・・・・・・・・・ 37
- (7) 学術フロンティア推進事業の年度別計画表・・・・・・・・49

## (1) 学術フロンティア推進事業の研究プロジェクトの目的・意義 及び計画の概要

### ■ 文部科学省・私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」とは

優れた研究実績をあげ、将来の研究発展が期待される研究組織を「学術フロンティア推進拠点」に選定し、内外の研究機関との共同研究に必要な研究施設、研究装置・設備の整備に対して重点的かつ総合的支援を行なう事業である。

### ■ 研究テーマ

生涯学習の観点に立った『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的な研究

### ■ テーマの設定と研究プロジェクトの意義と背景

この「生涯学習の観点に立った『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的な研究」（以下「研究プロジェクト」という）は、少子社会の現状を改善するという国家的な課題に取り組むということではなく、高等教育機関が研究として取り組む可能性のある範囲内で、研究を行うものである。

○少子化の現状と、「少子社会」を前提に、以下のような課題について研究する。

- ① 子ども自身に関する研究（子どもそのものの研究）
- ② 子どもと親をめぐる課題に関する研究（家庭教育）
- ③ 家庭をめぐる地域の課題に関する研究（子どもをめぐる環境）

また、少子社会における子どもの欠損体験を、教育的に補充・補完するという課題である、青少年の健全育成について研究する。

- ① 青少年に、奉仕体験をはじめ多様な体験学習を行う
- ② 子どもをほめる意義と地域的な運動による効果の研究と実践に関する研究等

○中高年の課題については、団塊の世代や、いわゆる高齢者など対象は広い。高齢社会のわが国では、もっとも重要な課題である。

それらの共通課題の一つは、「生きがいづくりの視点」が考えられる。そのためには生きていくうえでの仕事を持つということ、社会的に所属意識を高めるという状況、現代社会に適応するためなど、新しい課題に関する学習が必要である。

共通課題のもう一つは、「よりよい生活づくり」であろう。中高年者が自己を高め、生きがいを持ち、より豊かで安全な生活をめざすということが、基本的な課題であるといえる。

したがって、具体的には「中高年者の地域活動の研究」や「仕事づくり」について学習することや、「市民大学の研究」等、中高年の学習のあり方を研究する。また、広く住民に開かれた短期大学のシステムに関する研究などがある。その手法としては、通信教育の開発や団体・NPOのあり方等を研究することは急務である。

これらは、高等教育機関の役割とともに、中高年の役割を高めるための方策研究が不可欠である。

それは、地域の活性化を目指す活動と連動する。自治体における中高年の役割は、まちづくりのリーダーとして、さらに青少年の指導者としてますます大きなものになるはずである。それはとりもなおさず中高年者の活性化であり、地域の活性化である。いわばまちづくりにとって中核的な役割を担うものである。

さらに、少子・高齢社会の活性化に寄与できる生涯学習にかかわる指導者養成のあり方を研究することが高等教育機関の緊急な課題となっている。

生涯学習の観点に立って少子・高齢社会を活性化するためには、人々

の生涯にわたる学習活動を支援する地方公共団体や民間の教育産業など、生涯学習の基盤を整備する側の、果たすべき役割がきわめて重要になってくる。

そのため、高等教育機関には、生涯学習にかかわる専門職としての地方公共団体の行政職員や社会教育指導員など非常勤や嘱託などの指導職をはじめ、民間の教育・文化・スポーツ・レクリエーションなどの産業に従事する指導系職員（以下「生涯学習指導者」という）の養成と研修の機会を提供することが求められている。

本プロジェクトは、これらの生涯学習指導者の養成や研修を実効あるものとするため、少子・高齢社会の活性化を課題として取り組める社会教育主事や社会教育指導員、図書館司書や博物館学芸員などの指導系の専門職を養成するための教育課程や研修プログラムの開発などに関する研究を行っている。また、このような教育課程や研修プログラムの改善工夫が恒常的に研究できるような組織をつくることも進めている。

## ■ 研究の構造

- この学術フロンティア推進事業の研究は、単に「研究」だけでなく、「実践」「試行」がともなう。そして、その「成果を検証」し、できれば政策的な「提言」の形でまとめようとするものである。
- また、この研究には、「学術的な研究部分」と「フロンティアとしての開発部分」が考えられる。
- 研究プロジェクトでは、基礎的な研究をベースに新たな可能性を追求することが必要と考えている。そのためにこの研究は次の3つの部分を考え、総合的に推進することとしている。
  - ① 学術的な研究の部分
  - ② 政策的な提言の部分
  - ③ 大学の経営発展に寄与する部分

## ■ 研究の概要

この研究プロジェクトでは、各部門の研究テーマを中心にして、その内容を分析して、具体的な目標・テーマを設定している。個々のテーマごとに以下の6つの研究部門を組織化し、研究を推進している。

### ① 研究部門

- 第1部門 少子化に関する地域システムの研究
- 第2部門 少子社会における青少年の健全育成
- 第3部門 高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究
- 第4部門 大学と地域の協働による生涯学習システムの構築
- 第5部門 生涯学習指導者の養成と活用に関する研究
- 総括部門 研究体制の調整と研究の推進

### ② 年度別研究計画

「年度別計画表」(49頁)のとおり、5カ年にわたる研究計画を策定した。提出時の研究計画に則して、各研究部門で具体的な計画を立案し、それぞれのテーマを掲げて研究を推進してきた。

これまでの実績を考慮しながら、今後、平成17～19年度までの研究計画を「平成17年度以降の研究計画」(12頁)に記した。

## ■ 研究の特色

### ① 総合的な研究組織体制を取っていること

研究者の組織体制は、学内の研究者のほか、学外研究員で構成されている。さらにテーマごとに外部委員を含む協力研究員が多数加わっている。

### ② 学外の研究組織及び他大学の研究者との連携がある

研究にあたっては、他大学、各種研究機関のほか、団体・NPOとの密接な関連を持って研究を推進している。

### ③ 研究内容を柔軟に検討する体制を確立している

テーマによっては、関連する学会等と連携・協力し、研究成果を発表する計画がある。また、時宜を得た内容について検討することや、内容を精選して能動的に取り組むことも可能にする、新たな研究組織である。

④ 研究推進の拠点が整備されたこと

研究推進の総合的拠点施設として、「生涯学習社会貢献センター」を建設した。松戸駅前に地上 14 階建ての高層ビルは、この研究に全館がその機能を有し、その研究拠点として研究を推進している。

⑤ 本研究のために専任の研究員を講師として採用するとともに、センターに教官を配置している。

⑥ 自治体との連携体制が強化されていること

まちづくりなどの、テーマと内容によっては、自治体と連携して調査研究や研究事業を実施し、継続している。

⑦ 研究成果は、自治体の施策として活用できるものであること

研究テーマによっては、例えば、まちづくりアドバイザーなど資格養成研修で、実際のまちづくりに活用できるものが数多くあること。

⑧ 研究成果は、中高年の施策として、自治体や民間団体・NPO 等で活用できること

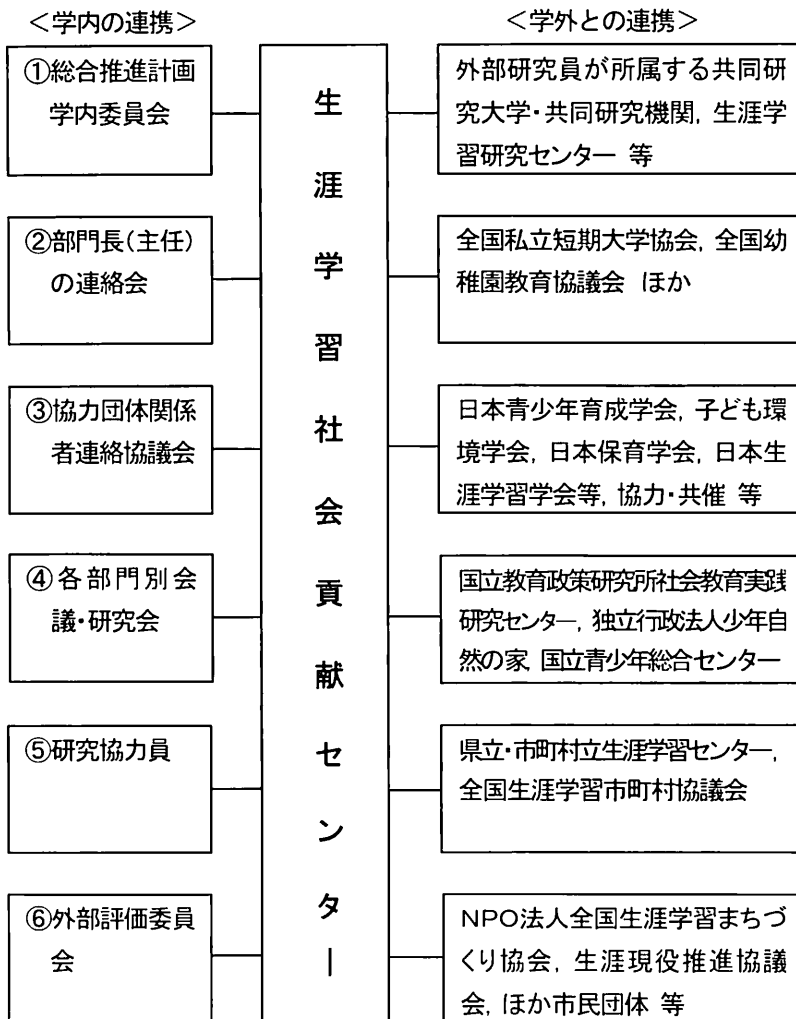
中高年の仕事づくりや、まちづくりボランティア、市民大学の効果的なプログラムなど、実際の自治体の施策として公民館等で活用できる内容として実施されている。

⑨ 研究は、実施し、具体的な試案として提案するものであること

研究成果は、単に研究だけでなく、実際の地域の活動や、まちづくりに活用されることを前提にするために、いずれも実験をともなっている活動であること。

## (2) 学術フロンティア推進事業の研究組織

この研究の推進のために、効果的な研究組織が必要である。聖徳大学生涯学習研究所では、次のような組織によって研究を推進している。



また、それぞれの研究組織が機能するために実質的な推進組織として、さらに以下のような組織を活用している。

① 総合推進計画学内委員会

学長をトップとして、学内の研究の位置付けや、研究の基本的な方向を決定するための委員会である。

② 部門長（主任）の連絡会

毎月1回程度、6部門のリーダーによる連絡会を実施している。この研究プロジェクトにおいては、最も機能的な検討会である。全体の進捗状況の報告、共同研究の打ち合わせ、課題別研究会の報告などを中心に行う。

③ 協力団体関係者連絡協議会

研究プロジェクトに関連する団体のリーダーとの連携を図るために、年1、2回程度の連絡会を実施している。研究テーマにもよるが、実態調査等に協力を依頼することなど、部門別では、かなりの回数の協議会が行われている。例えば、次のような協力団体がある。

※全国生涯学習まちづくり研究会、NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会、全国私立短期大学協会、全国幼稚園教育協議会、全国生涯学習市町村協議会、生涯現役推進協議会など

④ 各部門別会議及び研究会

日常的に最も多く開かれる会議である。部門ごとの研究会、課題発表会、研究会などのため、形式にこだわらず開かれているものが多い。第1部会のように、部門の中にさらに小グループをつくり、定期的に部門内の小グループ会議を持っているところもある。

⑤ 研究協力員

各部門には、研究テーマの内容が拡大あるいは細分化したため、研究に対応するスタッフが不足している。そのため、独自に学内の研究協力員を増やした部会もある。本プロジェクトでは、正規の研究員以外に、研究内容によって臨時に原稿執筆を依頼しているもの、研究テーマに随時参画するものなどを「研究協力員」として位置づけている。

## ⑥ 外部評価委員会

研究プロジェクトの事業の公平性、情報開示性を高めるために外部評価委員を委嘱することになっている。自己評価とともに外部からの点検評価をいただくために設置するものである。

委員の構成は、この事業に深い関心を持つ研究者、文部科学省の元幹部、一般会社の社長、女性、地元自治体幹部、社会教育の研究者など7名を委嘱している。なお、委員は直接的には研究に関与しない有識者であること条件から選定されたものである。

### (3)「生涯学習社会貢献センター」研究施設等

#### ■ 研究の概要

生涯学習社会貢献センターは、東京聖徳学園開学 70 周年記念事業に位置づけ、大規模な複合施設として建設された。そのため、学術フロンティア推進事業の当初の施設計画を若干変更した部分もある。

生涯学習社会貢献センターは、基本的には生涯学習関連施設が有する様々な機能を持っている。それらの多くはおよそ次のような施設機能を持ち、様々な活動を展開する。

#### ■ 施設の機能

##### 【生涯学習施設としての複合的機能】

##### ① 学習機会の提供

市民を対象とした様々な学習の機会を提供

学級講座、講演、シンポジウム、ミニコンサート、研究協議会

##### ② 学習情報の提供機能

市民を対象とした学習情報の提供

ニューズレター、広報など

##### ③ 学習相談の機能

市民を対象として、学習機会に関して相談案内など

##### 【生涯学習社会貢献センターとしての複合的機能】

##### ④ 情報・教材作成

教材作成スタジオ、スタジオ兼視聴覚室、教材編集・開発研究

##### ⑤ 高齢社会問題研究

プログラム開発、生きがい対策と人材活性化研究、資格取得支援研究、市民大学のプログラム等の研究

##### ⑥ 地域活動支援研究

コミュニティカレッジ研究，生涯学習指導者カリキュラムの開発，  
各自治体の生涯学習まちづくり研究，団体・NPO 連携支援研究

⑦ 少子問題研究

子どもの学校外活動研究，子どもの遊具研究，食育研究，保育室，  
子育て支援研究

⑧ 交流学习機能

講義，演習，実技等，学習成果発表，交流フェア，ギャラリー，  
市民交流の場

⑨ 自治体支援機能

自治体支援センター，生涯学習まちづくり支援センターなどの研究・  
実践の機能

## ■活用のための更なる方法

① 施設運営の改善と工夫

学内外の研究員，学内の教員及び事務，また地域の市民等と論議を  
重ね，施設運営に関する利用規定を取り決め，運営しやすい体制を整  
える。

② 研究の活性化と施設の機能を積極的活用

生涯学習社会貢献センターの各室は，当面必要な機能を果たしつつ，  
今後の計画の実施にあたって積極的に施設を活用する。

③ 活用しやすい施設としての経営

地域の市民にも親しまれる施設として，研究の強化と，研究会の公  
開講座等を活発化し，施設の啓発に努める。

④ 効果的な施設活用の事業の工夫

今後，計画される学術フロンティア推進事業は，施設を活用する事  
業が多く，効果的な事業を展開できるよう，プログラム等を工夫する。

## 生涯学習社会貢献センター 各階の施設機能

各階	施設の名称（施設の機能）	利用の現状と実態
15F	吹抜	
14F	生涯学習社会貢献センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の成果等の公開・発表・視聴覚教材の作製</li> <li>・講演会・地域の各種会議・課題別公開講演会</li> </ul>
13F	生涯学習社会貢献センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティルーム</li> </ul>
12F	小ホール（研修室1・2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内外における研修の場として利用</li> </ul>
11F	同窓会事務室（同窓会事務室、会議室）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内同窓会（香和会）事務室として利用</li> <li>・学内外での会議も利用可能</li> </ul>
10F	キッチン・スタジオ（調理室、飲食室）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食を通じたコミュニティの形成に役立てる、SOA等の利用</li> </ul>
9F	生涯学習社会貢献センター（視聴覚スタジオ・録音室）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材化したデジタルを外部に発信（実験予定）、及び視聴覚機器利用</li> </ul>
8F	生涯学習社会貢献センター（指導者育成開発部門、高齢者人材活用開発部門）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者人材活用に関する研究</li> <li>・大学生の生涯学習にかかわる学科等のカリキュラムの開発に関する研究</li> <li>・生涯学習指導者に関する研修プログラムの開発に関する研究</li> <li>・短期大学のコミュニティカレッジに関する研究</li> </ul>
7F	生涯学習社会貢献センター（共同研究・情報交換部門）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の研究協議の場（会議室）</li> </ul>
6F	生涯学習社会貢献センター（地域協働システム開発部門）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習社会貢献センター事務局</li> <li>・全国自治体情報センター</li> <li>・団体支援センター</li> <li>・生涯学習まちづくりセンター</li> <li>・学生のゼミなどの授業にも活用</li> </ul>
5F	生涯学習社会貢献センター（青少年の健全育成部門）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年の文献の解題等の分析、子ども・地域社会支援システムの開発に関する研究</li> </ul>
4F	生涯学習社会貢献センター（通信教育カリキュラム開発に関する研究）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信教育の教育方法、教材研究開発部門</li> </ul>
3F	生涯学習社会貢献センター（少子・家庭生活支援部門）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子・家庭生活に関する研究（癒しの空間）、子どもまつり、読み聞かせ、大会における一時託児・プレイルーム機能等</li> </ul>
2F	展示ギャラリー（市民の憩いの場、作品の展示）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色のある生涯学習に関する発表・展示・交流機能</li> <li>・子どもの素質に関する研究会</li> <li>・子どもの作品展、地域バリアフリーマップ展</li> </ul>
1F	エントランスホール、インフォメーション・中央監視室	

※灰色部分が、生涯学習社会貢献センター管轄

#### (4) 研究プロジェクトの進捗状況・研究成果等

##### ■ スケジュールに照らした各年度の進捗状況及び達成度

###### ① これまでの研究計画

本研究プロジェクトの推進にあたって、学術フロンティア推進事業研究テーマと研究領域等の一覧表を作成した。これは、当初計画の概要であり、研究成果の公表計画でもある。この表中には重複する部分もあるが、研究にあたっては、これらを統合し、あるいは整理した部分もある。

###### ② 平成17年度以降の計画（下記に記載）

後半の研究年度で新たに整理した。

##### ■ 年度ごとの研究内容の進捗状況と達成度

本研究の各プロジェクトが実施している主な研究活動は、次のようなものである。特に調査研究活動については継続中のものもある。

また、研究事業として、いくつかのフォーラム等を実施している。それらも本プロジェクトの研究の一環であり、また成果公表の場の一部として位置づけられている。

##### ■ 平成17年度以降の研究計画（続行・発足研究会）

###### <第1部門：少子化に関する地域システムの研究>

- ・中学生・高校生の育児体験に関するプログラム開発  
（次世代育成支援に関する研究）
- ・父親の子育てに関する学習プログラムの開発  
（企業との連携によるEラーニングプランの作成）
- ・幼稚園・保育園・小学校の連携システムに関する研究  
（長時間保育における癒しの室内空間に関する研究）
- ・子どもの食生活に関する調査研究

<第2部門：少子社会における青少年の健全育成>

- ・少子社会における子どもの活動の現状調査
- ・地域密着型の長期体験活動のプログラム開発研究
- ・現代青少年の理解（データブック）

<第3部門：高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究>

- ・団塊の世代の高齢期の生きがいや高齢期準備教育の現状や課題に関する研究
- ・高齢者の起業家養成（起業家、コミュニティビジネス等）のプログラムの開発・実施に関する研究
- ・中高年の地域活動の研究

<第4部門：大学と地域の協働による生涯学習システムの構築>

- ・自治体・NPO等による各種の認定・評価に関する研究  
青少年育成国民会議，実務教育協会，日本レクリエーション協会，日本商工会議所，日本生涯現役推進協議会 ほか
- ・市民大学と大学との連携によるプログラム開発に関する研究  
清水清見潟大学塾，藤沢市生涯学習大学，志布志創年大学 ほか
- ・生涯学習まちづくり活性化方策に関する研究

<第5部門：生涯学習指導者の養成と活用に関する研究>

- ・短期大学のコミュニティカレッジ機能に関する研究
- ・生涯学習指導者養成と活用に関する研究

<総括部門：研究体制の調整と研究の推進>

- ・『生涯学習の観点に立った「少子・高齢社会の活性化」に関する総合的研究』研究全体が明確になる冊子
- ・『生涯学習に関する総合的な研究』叢書（予定）

## ■ 特に優れている点

特に優れていると思われる点は、以下の通りである。

- ① 効果的に研究を推進する総合的な「生涯学習社会貢献センター」を設置したこと

地域の生涯学習とまちづくりの推進にとって効果的な立地条件の位置に、優れた施設「生涯学習社会貢献センター」が整備されている。

各大学や自治体等に対して、情報提供や相談体制が出来つつある。

また施設は、聖徳オープンアカデミー（SOA）、コミュニティルームの機能（レストラン、バンケット機能）、同窓会事務局などの一部が同居し機能している。これらの各施設は、現在のところ直接的な連携は少ないが、今後の研究に当たっては有利な条件になるものと予想される。

- ② 地域との連携システムが確立されつつあること

「生涯学習社会貢献センター」は、地域の活性化に貢献できる施設として、商工会をはじめボランティア団体、NPO 等との地域団体等と協力する体制にある。現在、この施設を拠点に「松戸まつり」など、地域と連携するボランティア及び学生の活動拠点としても活用が進められている。さらに地域の団体と共同研究も実施されており、研究拠点として、市民に認知され活動が定着しつつある。

- ③ 全国的な団体・NPO 等の連携事業により、成果の拡大を図っている

NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会や全国生涯学習市町村協議会などとの連携事業を実施し、全国的な成果を上げている。文部科学省の補助事業として「生涯学習まちづくりモデル支援事業」（平成 16 年度鹿児島県名瀬市、平成 15 年度文化庁補助事業 埼玉県松伏町）などを実施しているが、その基礎的活動において NPO との連携で実施し効果を上げている。

- ④ 全国的なまちづくりの拠点としての機能を強化しつつある

生涯学習社会貢献センターは、全国の生涯学習まちづくりの自治体と多くの交流の蓄積がある。全国生涯学習まちづくり研究会の事務局

を務めている関係から、まちづくりの情報や人材が集まってくるという好条件がある。今後は研究のための協力体制づくりや研究成果を活用するという場を得られる状況にある。なお、自治体支援センター、生涯支援センターの機能を有している。

⑤ 機能的な研究推進体制を確立していること

5つの研究部門にまたがる共同研究に効果を上げていること。その背景として各部門において、横断的な活動を取り入れていることも成果の一つである。地域の課題や当面する問題が生じた場合についても総括部門において新たな研究テーマとして臨機応変に取り上げることが可能であり、柔軟に対応する部分があることが特色となっている。

⑥ 研究活動の成果が新しい研究支援体制をつくっていること

本研究の課題として、実際に学習した成果が活用されることが望まれる。本生涯学習社会貢献センターで学んだ成人サークルがボランティアグループ「創年くらぶ」を結成して、館内行事等の運営や準備等に関するボランティアスタッフとして活動している。そのことが参加者の生きがいになるとともに、センターの運営への参画によって人材確保にもなっている。

## ■ 工夫点

① 各研究部門の主任による連絡会議を徹底し、定期的を実施し、研究成果を高める。

各部門の研究の進捗状況、共同研究の領域など、緊密な連携に努める。

② 総括部門による共通の研究課題を設定し、横断的に工夫し、効果的に取り組む。

③ ホームページの充実やメール等の活用により研究者相互の緊密な連携を図る。

④ 多様な事業の実施等を通じて、施設の効果的な活用を図る。

⑤ 市民ボランティアを養成活用することによって、市民の施設として

の意義を啓発する。

市民ボランティアの養成活用によって、市民参加の道を広げ、事業の円滑化を図る。また、そのことによって市民に開かれた施設としての啓発を充実させる。

- ⑥ 外部評価委員の指摘事項の意見を十分に吟味し、できるだけ速やかに改善に努める。

## ■ 研究成果の副次的効果

- ① 研究テーマに関する研究プロジェクトに関する参加希望の研究者が増加している

本研究プロジェクトに関する研究協力員の希望者が殺到している。これらは、学内外の研究員及び研究補助員として約100名が活動に参加している。

- ② 研究公開について、市民参画の気風が定着する傾向にある

5部門において、課題別の研究会を市民に公開していることから、大学の研究公開を楽しむ市民が増えている。

- ③ 市民の生涯学習社会貢献センターの運営へ、市民の一部参画が芽生えつつあること

研究所における事業への参加者が、生涯学習社会貢献センターのボランティアとして自主的に活動を支援している。

- ④ 民間団体、NPO等との連携が強化されつつある

NPO 全国生涯学習まちづくり協会との共催事業などを通じて、市内の各種の団体等との協力体制が生まれている。

- ⑤ 研究成果の発行資料が増加し充実

研究プロジェクトの研究成果がまとまり、資料として発行する計画が実現しつつあり、資料整備が充実しつつある。

- ⑥ 研究成果が普及しつつあり、地域の活動に発展しつつある

普及資料等の市販図書としての計画が進行するなど、研究成果の作成資料が自治体で活用されつつある。

(例) 子どもをほめよう研究大会など

- ⑦ 中高年の研究については「創年運動」として全国的に波及しつつある NPO との連携による中高年の地域活動に関する研究の一部は、「創年」と呼ぶ活動と連動し、地域の創年活動として全国的に広がりつつある。

(例) 創年市民大学の設置など

- ⑧ 新学科設置の気運の高まりにより「生涯教育文化学科」の設置が決定  
本研究プロジェクトの「大学における生涯学習指導者養成に関するカリキュラムの開発に関する研究」(第5部門)の研究成果が、時代の要請に即した新学科として「生涯教育文化学科」の構想に発展し、平成18年度から本学における新学科「生涯教育文化学科」の設立が決定し、認可された。

- ⑨ 大学教員の生涯学習指導者養成カリキュラムの開発に関する研究組織の設立が期待できる

平成16年「大学の生涯学習指導者養成に関する現状と課題に関する調査」の実施を契機として、「生涯学習に関する教育課程を履修する大学生に対する標準的カリキュラムの開発」を恒常的に研究できる大学の教員をメンバーとした「生涯学習養成大学連絡協議会」(仮称)の設立が期待できる。

## ■ 今後の研究方針

平成18年以後を中心に、次の諸計画に関する研究は、本研究の中核をなすものであり、早急に取りかかり、あるいは継続・展開する必要がある。なお、この一部はすでに研究に着手し実施中のものも含まれている。

- ① 家庭教育の標準的な学習プログラムの研究

少子化における家庭教育の標準的なプログラムに関する研究を行うとともに、個々のケースを想定したプログラム例を作成する。

- ② 長期集団宿泊による奉仕体験等に関する研究

少年自然の家等を活用して、子どもの奉仕体験等の多様な体験をさせるための長期集団宿泊による研修のあり方を検討する。

③ 地域における子どもの活動プログラムの研究

子どもの社会活動のあり方について、地域の課題、少子化の中の家庭の課題を踏まえたうえで効果的な方法について研究する。また地域の立場から、主に中高年とのかかわりを中心に研究する。

具体的には、子どもをめぐる地域活動の進め方について実践的な方法をまとめる。

④ 団塊世代の高齢期準備教育の学習プログラムの開発に関する研究

団塊世代の社会参加についてモデルプログラムを開発する。具体的には、高齢期準備教育プログラムについて研究する。さらにその成果を、企業との連携によって実施し検証する。

⑤ 高齢期の起業家養成プログラムの研究

高齢期に起業を実際にできるのか、具体的な方法について実証的に研究する。その経過として実際にビジネスとして研究し、この実験的なビジネスの実践を加えながら企業家としての可能性を探る。さらにそのモデルプランを提示する。

⑥ 市民大学に関する研究

自治体で行う社会教育事業としての市民大学に関して、プログラムとその運営について研究する。さらに実際の大学と連携して、たとえば、単位取得の可能なプログラム、資格取得の可能なプログラム等について、その可能性と効果的な方策を探る。具体的には全国の市民大学と共同研究を進め、通信教育も視野に入れた共通のプログラムの開発をめざす。なお、研究成果の一部は、自治体・NPO 等と連携してその成果を一般に普及する。

⑦ 全国の自治体と結びつく通信教育システムの研究

自治体の職員研修プログラムや自治体の市民大学のプログラムなど、通信教育の手法を研究し、その実現の可能性について研究する。

⑧ 大学における団体・NPO 等の支援センターに関する研究

このプロジェクトの中心的課題として、中高年を対象とする研究がある。団塊世代をはじめ、高齢期の学習や地域活動は、将来の大学の顧客としての期待される層である。具体的には、次のような研究に焦点化する。

ア. 中高年の地域活動の拠点に関する研究

イ. 中高年の仕事づくりに関する研究

⑪ 大学における生涯学習センターの研究

全国の大学に設置されている大学生涯学習研究センター等について、その実態を調査し、今後の大学における生涯学習センター等の機能や地域との連携方法等の望ましいあり方について研究する。

⑫ 大学におけるまちづくりアドバイザーの養成に関する研究

まちづくりアドバイザーについては、NPO・団体で行われている以外にはない。この実態を調査し、内容方法について検討し、高等教育機関との連携による実施の可能性を探る。具体的には「地域アナメーター」「まちづくりコーディネーター」「読書活動サポーター」などの実際について検討する。

⑬ 短期大学のコミュニティカレッジ化に関する研究

短期大学とのコミュニティカレッジ化について、海外の実態等について研究し、わが国におけるコミュニティカレッジについて独自のあり方について検討する。

具体的には

ア. 海外における短期大学とコミュニティカレッジについて実態を研究する

イ. 我が国における短期大学のコミュニティカレッジ機能のあり方について研究を行う

ウ. 生涯学習貢献センターにおける実施の可能性について研究する

⑭ 大学における生涯学習指導者の標準的プログラムの開発

社会教育主事をはじめ、図書館司書や博物館の学芸員など生涯学習や社会教育の現場で活躍する専門職の養成のための標準的なプログラ

ムを開発する。また、その教育方法や教科書の編纂についても研究する。

#### ⑮ 社会教育指導員等指導系非常勤の研修プログラムの開発

生涯学習社会を形成するためには、社会教育指導員等指導系の非常勤職員の力量に左右されるといわれている。その各地方公共団体の指導系非常勤職員は少数であり、そのための研修は広域的にならざるを得ない状況にある。そこで、IT等を活用した研修プログラムと教材の作成について研究する。

### ■ 今後、期待される研究成果

今後の研究計画で、これまでの成果のほかにも、3年日以降の各部門の研究計画を推進することにより、その成果としては次のような項目が期待される。

- ① 自治体の成人教育団体、市民大学等の連携により、通信教育に関する研究を進め、中高年の学習機会が拡大する。
- ② 地域の中に活躍する生涯学習社会貢献センターとして、様々な機能が促進され可能性が広がる。
- ③ 大学として新しい資格免許等が開発され、大学のカリキュラムに取り入れることにより、大学の独自性を拡大することが可能となる。
- ④ 短期大学等に関する研究を進めるとともに、コミュニティカレッジのあり方に関する研究を進める。大学における社会人入学の道を開くとともに、社会人の入学を推進する。
- ⑤ 生涯学習社会貢献センターによる移動大学の実施等により、地域と大学の連携を強化し、社会人学生の確保に貢献する。
- ⑥ 学術フロンティア推進事業の成果を通じて、聖徳大学の人的体制を駆使した少子高齢社会に関する各種の研究開発が期待できる。
- ⑦ 各自治体との連携により、中高年の生涯学習の推進や活動拠点の研究が推進される。

- ⑧ 大学と団体・NPO との連携・協力が推進される。

## ■ プロジェクトの評価体制

### 自己評価体制

- 研究所報を発行し、進捗状況を報告する
- 定期的に課題別研究会を実施し、部門間の相互評価・連携を図っていくこと
- ホームページの設置により研究成果を常時公開すること
- 研究資料の出版等により研究会を開催するなど、成果の普及拡大を図っていくこと
- ニュースレターの発行による自己評価に努めること
- 研究主任による定期的な自己点検活動に努めること

### 外部評価体制

- 外部評価委員の検討、自己点検評価を実施していること
- 外部評価委員会は、機能的な評価委員会とし、積極的に評価活動を推進すること

## (5) 学術フロンティア推進事業の実践

### ■ 学会やシンポジウム等の実施状況

研究プロジェクトに参加している研究委員が、各々の所属する学会等で本研究のプロジェクトの研究内容に関する内容の発表がなされていることもあると思われる。直接的に関連した学会やシンポジウム等について発表されたものは次の通りである。

#### ○ 国際幼児教育学会

内容：聖徳大学 第1部門研究員が発表（加藤敏子 ほか）

#### ○ 子ども環境学会シンポジウムの共催

日時：平成17年4月23日

会場：建築会館

内容：パネラーとして発表（福留強）

#### ○ 日本青少年育成学会

日時：平成17年9月17日

会場：生涯学習社会貢献センター12, 13, 14階

主催：日本青少年育成学会

協力：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

テーマ：青少年育成、これが課題だ、解決方法だ。

発表者：桑村季子, 服部英二, 吉川弘 ほか

ほか、多数実施。

### ■ 大会・研修会等の実施

学術フロンティア推進事業のスタート以来、本研究のプロジェクトとして関連付けて実施した大会・研修会・研究会等は数多くあるが、比較的規模の大きな事業のみあげると、次のようなものがあげられる。

なお、基本的に平成17年度は、生涯学習社会貢献センターを会場としている。

○ **第5回聖徳大学生涯学習フォーラム**

日 時：平成15年6月29日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

会 場：聖徳大学奏楽堂 ほか

参加者：約200名

内 容：鼎談「少子高齢社会の活性化について」北村節子，穂坂邦夫，  
福留強 ほか

○ **韓日生涯学習まちづくりの実践と課題に関する研究会**

日 時：平成15年8月9日～14日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

共 催：韓国平生教育連合会，NPO法人全国生涯学習まちづくり協会

場 所：さわやかちば県民プラザ

参加者：韓国側60名，日本側40名

備 考：韓日友好生涯学習まちづくりセミナーとして開催

○ **生涯学習まちづくり現地視察及び地域の関係者の交流事業**

日 時：平成15年8月30日～31日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

場 所：山梨県山梨市，勝沼町

参加者：約80名（研究委員25名）

内容等：ヒアリング調査

「学校5日制の現状と課題」PTA対象（第2部門）

「高齢者の社会活動に関する現況と課題」高齢者団体対象（第3部門）

「まちづくりに関する現状と課題」成人男女（第4部門）ほか

○ **第6回聖徳大学生涯学習フォーラム**

日 時：平成16年6月27日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

会 場：聖徳大学奏楽堂 ほか

参加者：約250名

内 容：「少子高齢社会の活性化に関する総合的研究の経過と展望」など

○ 海外先進地視察研修(スウェーデン, デンマーク)

日 時：平成16年8月24日～8月30日

テーマ：福祉・教育施策と課題, 先進国の子育て支援との施策と課題

参加者：福留強

大澤裕, 加藤敏子, 近内愛子, 村田光子, 森川文子(第1部門)

備 考：平成17年11月報告書発行

○ 第3回子どもをほめよう研究大会・南九州大会(志布志町)

日 時：平成16年11月20日

会 場：鹿児島県志布志町 志布志町文化会館

参加者：約500名

テーマ：「せつぺとべ。地域に輝く創年と子ども」

「創年と子どものまち宣言」記念講演「薩摩隼人の子育て」など

○ 第4回子どもをほめよう研究大会・東北大会(気仙沼市)

日 時：平成17年1月30日

会 場：宮城県気仙沼市立松岩公民館

参加者：約400名

テーマ：「地域で子どもを育てよう」

内 容：<分科会>

「地域で育つ子どもたち」ほか

<シンポジウム>

「まちづくり、小さなことから地域が変わる」菅原明彦 ほか

○ 創年と若者の研究交流会

日 時：平成17年3月16日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

共 催：NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会, 創年くらぶ

後 援：千葉県教育委員会, 松戸市教育委員会, 教育新聞社, 日本生涯  
現役推進協議会

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター

参加者：約 100 名

テーマ：「創年運動」を広め、創年の意義を学び、そのあり方を研究する

○ 第 7 回第聖徳大学生涯学習フォーラム(学術フロンティア推進事業研究大会)

日 時：平成 17 年 6 月 26 日

主 催：生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

後 援：全国生涯学習市町村協議会，NPO 法人全国生涯学習まちづくり研究会，千葉県教育委員会，松戸市教育委員会，教育新聞社

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター

参加者：約 200 名

テーマ：生涯学習の観点から地域の  
活性化を考える

内 容：<シンポジウム>

「地域にチャレンジする女性」

谷口郁子（イムノエイト株式会社  
代表取締役社長）

杉本由子（株式会社社労翠園

株式会社老松園 代表取締役社長）

長江曜子（聖徳大学短期大学部総合文化学科教授）

小川誠子（國學院大學非常勤講師）

福留強

<分科会>

「子ども・女性・創年と地域ネットワーク形成」

第 1 分科会「子どもの環境と地域の課題」

塩美佐枝，西智子，村田光子

第 2 分科会「創年の学習課題と地域への貢献」

蓮井昌雄，松山明子，齋藤ゆか，ほか

第 3 分科会「市民が主役のまちづくりの現状と課題」

安田いく代，鈴木洋子，ほか

第 4 分科会「高校生と教師が考える地域参加」



—シンポジウムの様子—

西村美東士, 花輪茂道

<全体会>

「分科会討議からのレポート ～女性のチャレンジ支援をめぐる」  
名取はにわ (内閣府男女共同参画局長)

## ○ バリアフリーのまちづくりシンポジウム

日 時 : 平成17年7月24日

主 催 : バリアフリーまつど市民会議, 聖徳大学生涯学習研究所  
学術フロンティア推進事業

後 援 : 松戸市, 松戸市教育委員会, 松戸まちづくり連絡協議会

会 場 : 聖徳大学生涯学習社会貢献センター14階

参加者 : 約70名

テーマ : みんなでつくろうバリアの  
ないまち まつど

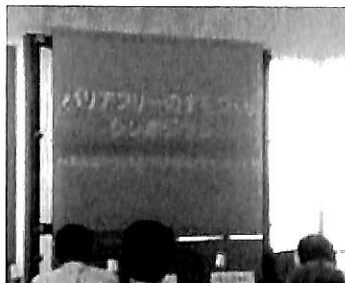
内 容 : <講演> 「福祉のまちづくり」  
高尾公矢

<パネルディスカッション>

吉原久喜, 島田昌司, 秩父達

也, 元山幹雄, 齋藤美也子,

蓑輪裕子, 坪井真



ーバリアフリーまちづくりシンポジウムー

## ○ 子どもの健全育成に関する研究会

日 時 : 平成17年8月26日

主 催 : 生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

共 催 : NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会, 全国生涯学習まちづ  
くり研究会, (社) スコーレ家庭教育振興協会

後 援 : 文部科学省, 埼玉県松伏町教育委員会  
鹿児島県名瀬市教育委員会

会 場 : 聖徳大学生涯学習社会貢献センター14階

内 容 : <講演>

「地域で子どもを育てよう」

～子ほめ条例のまちは変わるのか～」 福留強  
<シンポジウム>

「子どもの素質を見つけよう！」

屋嘉比厚子, 前村卓己,  
青木早枝子, 鈴木緑, 夏秋  
英房ほか

備 考：少年画家 屋嘉比ひろし君  
(田中一村に影響を受けた少年画家) 展示会同時開催

8月26日～9月2日 (2階ギャラリーにて)

※こどもまつり同時開催 (聖徳大学生涯学習社会貢献センター  
12階にて)



左：ひろし君の母, 厚子さん  
中央：屋嘉比ひろし君  
右：前村卓己先生

○ まちを楽しむマップ展

日 時：平成17年9月20日～10月7日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業  
松戸市, 松戸商工会議所

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター2階ギャラリー

テーマ：まちを楽しむマップ展

～あなたのまち見直してみませんか？～

備 考：松戸まつりにともなうギャラリー展示会

○ クリスマス会 (高齢者(創年)の  
生きがい活動と学習拠点づくり)

日 時：平成17年12月10日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所  
学術フロンティア推進事業

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献  
センター12階

参加者：約30名



一学生と創年くらぶ主催の  
クリスマス会ー

テーマ：創年の社会貢献活動ークリスマスを通じて

### ○ 松っ戸(まつっこ)ウォークラリー大会

日 時：平成 18 年 3 月 25 日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所  
学術フロンティア推進事業

後 援：松戸市，松戸市教育委員会，  
松戸市レクリエーション協会  
松戸市観光協会

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献セン  
ター，松戸駅東口周辺



ーウォークラリー大会ー

参加者：スタッフ約 50 名，一般参加約 100 名

テーマ：あなたの知らない松戸を発見

### ○ 聖徳大学附属小学校「児童造形」

日 時：平成 18 年 2 月 28 日～3 月 4 日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティ  
ア推進事業

共 催：聖徳大学附属小学校

会 場：生涯学習社会貢献センター 2 階ギャラリー

趣 旨：子ほめ運動のプログラム案として  
地域における子どもの活動プログラム



ーパンフレットー

### ○ 第8回聖徳大学生涯学習フォーラム

日 時：平成 18 年 6 月 18 日

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

後 援：千葉県教育委員会，松戸市，松戸市教育委員会，松戸商工会議  
所，全国生涯学習まちづくり研究会，NPO 法人全国生涯学習  
まちづくり協会

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター

テーマ：創年と若者がつくるコミュニティの活力

内容等：<分科会>

### 第1分科会「子どもと遊び」

塩美佐枝, 塚本美知子, 西村美東士

### 第2分科会「若者によるまちづくり活動」

神谷明宏, 齊藤ゆか ほか

### 第3分科会「創年によるまちづくり活動」

長江曜子, 松澤利行 ほか

### <シンポジウム>

「世代間交流がコミュニティを再生する」

山下真由美, 吉岡絹枝, 芝内健治, 池田恵美子, 福留強 ほか

### <講演>

「創年に学んで創意を高める青年」

松下俱子 (独立行政法人 国立青少年教育振興機構 理事長)



—松下俱子先生の講演会—

### ○ 短期大学のコミュニティカレッジに関する研究

日 時: 平成18年6月21日~24日

テーマ: 短期大学のコミュニティカレッジに関する研究

訪問先: ハワイ大学カピオラニ・コミュニティカレッジ ほか

参加者: 水垣怜子, 長江曜子, 片桐章子(第5部門)

### ○ 中国における中高年の地域活動に関する研究

日 時: 平成18年8月31日~9月6日

テーマ: 中国における中高年のたまり場の実践的活動についての実態の考察等

参加者: 高尾公矢, 山田等, 赤羽克子(第4部門)

### ○ 第2回まちを楽しむマップ展

日 時: 平成18年9月25日~10月8日

主 催: 聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業総括部門  
松戸市, 松戸市商工会議所

協 力：創年くらぶ，バリアフリーまつ  
ど市民会議，松戸市都市整備本  
部企画管理室

会 場：生涯学習社会貢献センター  
2階ギャラリー

テーマ：さあ、出かけよう！見つけ  
よう！私のまち



ーマップ展 展示の様子ー

## ○ 生涯学習まちづくりサミット IN 水戸 ～地域に輝く女性たち～

日 時：平成 18 年 10 月 8 日

会 場：茨城県立青少年会館

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業  
NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会

共 催：(社)スコーレ家庭教育振興協会，カメイ社会教育振興財団，  
NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会茨城県支部

テーマ：地域に輝く女性たち

内容等：＜分科会＞

第 1 分科会「地域に輝く女性たち」

池田恵美子，杉井智子，宮坂いち子 ほか

第 2 分科会「創年と青少年の交流」

永池榮吉，久世寿里，齊藤ゆか ほか

＜シンポジウム＞

「地域に輝く女性たち」

長谷川幸介（茨城大学助教授）

岸裕司（秋津コミュニティ顧問）

北村節子（読売新聞社 主任研究員）

秦靖枝（茨城県立医療大学講師，茨城県社会福祉協議会副会長）

ほか

## ○ クリスマス会

日 時：平成18年12月22日  
主 催：聖徳大学生涯学習研究  
所 学 術 フ ロ ン テ ィ ア  
推 進 事 業  
第3・第5部門，聖徳  
大学児童学科「社会教  
育イベントの企画」受  
講生，松戸西口2丁目  
子ども会，同育成会



ークリスマス会の様子ー

共 催：創年くらぶ

会 場：生涯学習社会貢献センター12階

## ■ 公開講座・課題別研究会の開催

各部門別に行う研究会を「課題別研究」として公開で行うものである。  
そのほかに研究プロジェクト内だけの課題別研究も行われている。

### ○ 総括部門 課題別研究会

日 時：平成15年6月17日

テーマ：「少子高齢社会の活性化について」の研究の進め方について

### ○ 第1部門 課題別研究会

日 時：平成16年2月23日

テーマ：「次世代育成について取り組みに関する協議会」

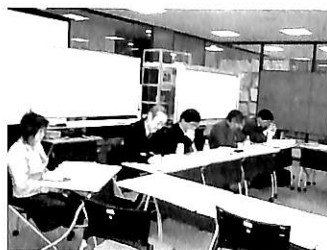
講 師：坂本俊造，中村紀子

### ○ 第2部門 課題別研究会

日 時：平成16年2月24日

講 演：「青少年とボランティア」

講 師：木村清（学術フロンティア  
外部研究員）



ー課題別研究会の様子ー

○ 第3部門課題別研究会

日 時：平成16年3月22日 15:00～16:30

会 場：聖徳大学7号館7333教室

テーマ：プロダクティブ・エイジングとボランティア活動に関する  
研究 一定年退職後の余暇生活とボランティア

講 師：齊藤ゆか（聖徳大学生涯学習研究所）

○ 第1部門課題別研究会

日 時：平成16年5月28日 13:00～14:30

会 場：聖徳大学7号館会議室

テーマ：子育て支援の現状と課題

講 師：村田光子（聖徳大学保育科）

○ 第3部門課題別研究会

日 時：平成16年11月13日 13:00～14:30

会 場：聖徳大学5号館5201教室

テーマ：高齢者雇用の現状と課題

講 師：河内哲郎（高齢・障害者雇用支援機構情報研究部）

○ 第3部門課題別研究会

日 時：平成17年3月17日

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター5階 0501教室

テーマ：インタージェネレーションとは、何か

講 師：草野篤子（信州大学 教授）

○ 第1部門課題別研究会

日 時：平成17年5月27日 13:00～14:30

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター5階0501教室

テーマ：子どもの食育

内 容：研究発表

「幼稚園・保育園における保護者の食意識について」

中尾芙美子（聖徳大学生活文化学科 助教授）

「幼稚園における食教育・食指導の実態」

「千葉県、東京都の幼稚園調査から」  
小杉洋子（聖徳大学児童学科 教授）  
「幼稚園における食教育・食指導  
—自由記述にみる幼稚園の食教育事情—」  
木村敬子（聖徳大学児童学科 教授）

### ○ 第1部門課題別研究会

日 時：平成17年6月3日

13:00～14:30

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献  
センター5階0501教室

テーマ：心を育てる・家族を育てる  
食卓



—課題別研究会の様子—

講 師：室田洋子（聖徳大学児童学科 教授）

### ○ 第4部門課題別研究会

日 時：平成17年6月20日 10:00～11:30

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター14階

テーマ：官学民の協働 協働による河川愛護運動の展開

講 師：花輪茂道（聖徳大学総合文化学科 教授）

### ○ 第4部門課題別研究会

日 時：平成17年9月5日

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター5階0501教室

テーマ：心のバリアフリーをさぐる

講 師：成瀬光（聖徳大学児童学科 教授）

### ○ 第3部門課題別研究会

日 時：平成17年11月4日 14:00～16:00

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター5階0501教室

テーマ：変わり行く企業年金の表情 —停年退職後の生活設計—

講 師：中村義人（曙ブレーキ工業企業年金理事）

○ 第1期駅前創年セミナー(全5回)

日 時：平成17年11月4日, 12月2日,  
平成18年1月13日, 2月3日,  
3月3日 毎回18:00~19:30

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター  
12階, 5階0501教室

テーマ：あなたも創年になりませんか？

講 師：福留強, 長江曜子, 西村美東士 ほか



○ 第2部門課題別研究会

日 時：平成18年1月20日  
16:30~18:00

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター9階0901教室

テーマ：青少年における社会・自然体験学習の意義と課題

講 師：岡崎友典(放送大学 助教授)

—創年セミナーでのひとコマ—

○ 第2部門課題別研究会

日 時：平成18年2月3日 10:30~12:00

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター5階0501教室

テーマ：地域はあなたを待っている！ ~若い世代が求める中高年の知恵~

講 師：神谷明宏(聖徳大学児童学科 助教授)

○ 総括部門課題別研究会

日 時：平成18年3月1日 17:30~19:00

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター8階0803教室

テーマ：専門ボランティアの位置と活かし方 —ボランティアの意味を問う—

講 師：齊藤ゆか(聖徳大学生涯学習研究所 講師)

○ 健康フェア・サテライト講演会

日 時：平成18年3月4日

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター14階

主 催：(株)イトーヨーカ堂，(独)国立健康栄  
養研究所 産学協同研究事業  
協 力：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロ  
ンティア推進事業  
テーマ：糖尿病を予防するための食事と運動  
とは  
講 師：高橋佳子，田畑泉



—講演の様子—

## ■ 少子化に関する地域システムの研究(講座等)

### ○ 中学生の育児体験学習

日 時：平成17年8月1日，8月2日，8月3日

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター3階，野菊野保育園

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

テーマ：中高生の育児体験に関するプログラムの開発

担 当：小櫃芳江，永井妙子，  
吉田佐治子，村田光子，  
矢萩恭子

(第1部門第1グループ)

### ○ 高校生の育児体験学習

日 時：平成17年8月8日～  
9日

会 場：聖徳大学生涯学習社会  
貢献センター3階，松戸市立八柱保育所

主 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

テーマ：中高生の育児体験に関するプログラムの開発

担 当：小櫃芳江，永井妙子，吉田佐治子，村田光子，矢萩恭子  
(第1部門第2グループ)



—会場内の様子—

## ■ 自治体と連携した移動講座

「生涯学習まちづくりモデル支援事業」平成16年度は、文部科学省委嘱事業として、名瀬市と聖徳大学生涯学習研究所が指定委嘱を受け、市民大学等を実施している。

平成17年度は、名瀬市単独事業「名瀬なげきよら塾」として継続している。

### ○ 名瀬市創年市民大学「名瀬なげきよら塾」

名瀬市教育委員会と共催の市民大学の開設（平成17年7月）。前年度に続き開設するもの。

### ○ 志布志創年市民大学

志布志町の創年市民大学の共催（平成17年6月）。前年度に続いて開設するもの。資格の取れる講座が特色となっている。

### ○ 第1回地域まちづくり塾

日 時：平成17年9月24日

主 催：松戸市都市整備本部企画管理室、松戸まちづくり連絡協議会

共 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター14階

テーマ：身近なアートで心豊かなまちづくり

講 師：土屋公雄（武蔵野美術大学 客員教授）

### ○ 中心市街地活性化講演会

日 時：平成18年3月15日

主 催：松戸市、松戸商工会議所

共 催：聖徳大学生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

会 場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター14階

テーマ：魅力ある松戸の中心市街地づくり ～都市経営の観点から～

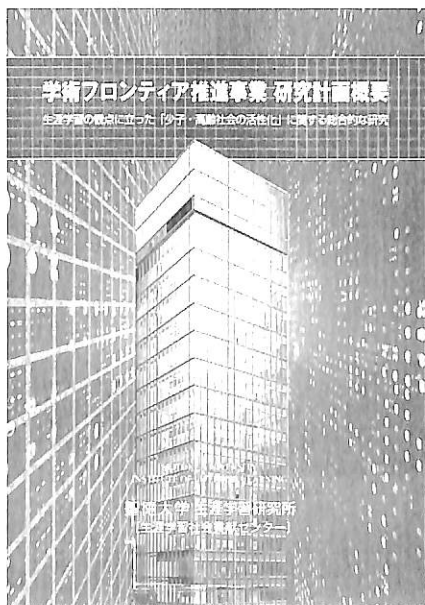
講 師：藻谷浩介（日本政策銀行地域企画部 参事役）

## (6) 学術フロンティア推進事業の研究成果

### ■ 報告書としてまとめ、公表・発表したもの

以上のような調査研究等を実施してきたが、これらの成果は、次のような報告書・文献として発表した。具体的に成果が表われているものについて、以下のような報告書を発行している。

なお、これらの文献資料については、各種の研修会等において配布し活用している。

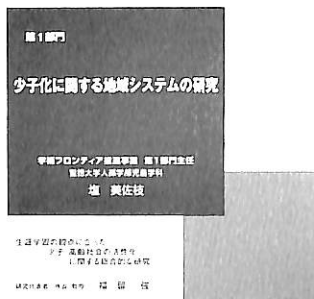


### 『学術フロンティア推進事業 研究計画概要』

- ・ 聖徳大学生涯学習総合支援研究機構図
- ・ 研究成果の公表計画一覧
- ・ 聖徳大学生涯学習社会貢献センターの主な機能

## 第1部門関連

平成15年度 聖徳大学学生研究活性化推進事業  
学術フロンティア推進事業 平成15年度 研究成果報告書



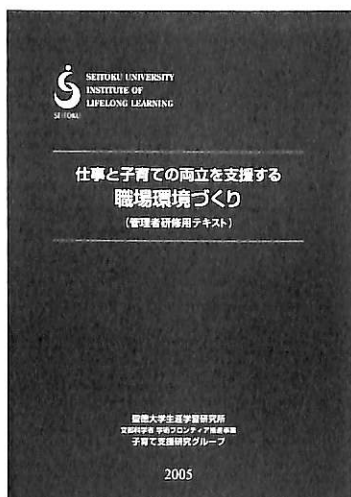
SEITOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING  
聖徳大学 生涯学習研究所

### 『少子化に関する地域システムの研究』

(平成15年3月発行)

1. 第1部門の研究の目的及び構造
2. 第1年次研究の報告

塩美佐枝, 大澤裕, 岡田耕一, 加藤敏子,  
小櫃芳江, 高梨圭子, 田口康明, 近内愛子,  
塚本美知子, 村田光子, 森川文子, 湯川秀  
樹, 吉田佐治子



### 『仕事と子育ての両立を支援する職場環境づくり (管理者研修用テキスト)』

(平成17年発行)

1. 管理者として「仕事と子育ての両立を支援する職場環境づくり」について
2. なぜ仕事と子育てを両立させる必要があるのか  
ほか

制作: 塩美佐枝, 小櫃芳江, 近内愛子, 吉田  
佐治子

協力: 田中久夫

平成15年度～19年度 札幌大学科学研究費助成事業  
学術フロンティア推進事業 平成17年度 研究促進報告書  
生涯学習推進センター研究費助成事業助成研究費助成報告書

～北欧の子育て支援 デンマーク・スウェーデンを訪ねて～  
**北欧視察研修報告**

2001年8月24日～8月30日



SEITOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

聖徳大学 生涯学習研究所

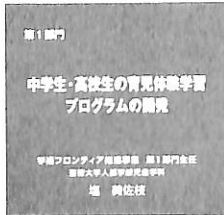
『北欧視察研修報告』

～北欧の子育て支援 デンマーク・スウェーデンを訪ねて～  
(平成17年11月発行)

1. コペンハーゲン・スウェーデンの文化と生活
2. 子育て支援の施策と課題
3. デンマークおよびスウェーデンにおける子育て支援に学ぶほか

大澤裕, 加藤敏子, 近内愛子, 村田光子, 森川文字

平成16年度～17年度 札幌大学科学研究費助成事業  
学術フロンティア推進事業 平成16・17年度 研究促進報告書



生涯学習センター  
札幌大学生涯学習研究所  
研究費助成事業助成報告書

聖徳大学 生涯学習研究所

『中学生・高校生の育児体験学習プログラムの開発』

(平成18年3月発行)

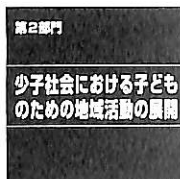
1. 平成16年度の取り組み
2. 平成17年度の取り組み
3. まとめと今後の課題

塩美佐枝, 小櫃芳江, 永井妙子, 村田光子,  
矢萩恭子, 吉田佐治子

## 第2部門

2017年度（平成29年度）私立大学学術研究奨励費助成事業

学術フロンティア推進事業 平成16年度 研究成果報告書



SETOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING  
聖徳大学 生涯学習研究所

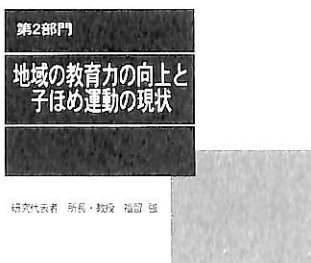
『少子社会における子どものための地域活動の展開』  
(平成17年3月発行)

1. 少子社会における地域活動をめぐる諸課題
2. ボランティア学習・教育の国内外の展開
3. 学校と地域社会との連携による道徳教育
4. 自然と観光の強制をめざした生涯学習 ほか

夏秋英房, 有働玲子, 齊藤ゆか, 西村美東士, 細戸一佳

2017年度（平成29年度）私立大学学術研究奨励費助成事業

学術フロンティア推進事業 平成16年度 研究成果報告書



SETOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING  
聖徳大学 生涯学習研究所

『地域の教育力の向上と子ほめ運動の現状』(平成17年3月発行)

1. 地域で子どもが育ってこそその「生涯学習社会」
2. 子どもが、家庭・学校・地域で、ほめられることがなかったならば…
3. プロセスでほめるとよいのは、なぜ
4. ヘタな叱り方、上手なほめ方、ほめられ方 ほか

福留強

### 第3部門

SHIBUKAWA UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

学術フロンティア推進事業 平成15年度 研究成果報告書

第3部門

高齢者の生きがい対策と  
人材活性化に関する研究

SHIBUKAWA UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

聖徳大学 生涯学習研究所

『高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究』  
(平成16年3月発行)

1. 個人の「学習活動」に関する調査研究の概要
2. 調査結果の考察
3. 高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究
4. 提言－高齢者の生きがい対策と人材活性化の方向－

宮坂いち子, 長田由紀子, 上條秀元, 齊藤ゆか, 都築忠義, 西村美東士, 早坂明彦, 荻輪裕子

SHIBUKAWA UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

学術フロンティア推進事業 平成17年度 研究成果報告書

第3部門

定年退職前教育と  
生きがいに関する研究

学術フロンティア推進事業 第3部門主任

聖徳大学人文科学研究センター

宮坂 いち子

生涯学習の部局に立って  
「女子 高齢社会の活性化」  
に関する研究報告書

聖徳大学 生涯学習研究所

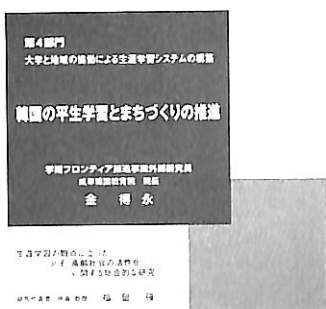
『定年退職前教育と生きがいに関する研究』  
(平成18年3月発行)

1. 定年退職（早期退職）後の生きがいに関する調査研究の概要
2. 「定年退職後の生きがいに関する調査」結果の考察, 個人事例
3. 定年退職前の企業内教育  
ほか

宮坂いち子, 長田由紀子, 川口一美, 河内哲朗, 草野篤子, 齊藤ゆか, 都築忠義, 中村義人, 西村美東士, 早坂明彦, 檜垣昌也, 茂木和行

## 第4部門

研究員名 福留強、金得永、北澤大志、藤原由紀子、藤原由紀子  
学術フロンティア推進事業 平成15年度 研究成果報告書



SEIHOKI UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING  
聖徳大学 生涯学習研究所

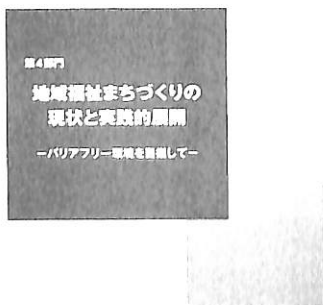
### 『韓国の平生学習とまちづくりの推進』

(平成16年3月発行)

1. 生涯学習の推進に関する海外ネットワークの開発
2. 韓国生涯学習まちづくりの現状と課題
3. 生涯学習まちづくり事例
4. 日・韓生涯学習まちづくり国際シンポジウム

福留強、金得永（ほか）

研究員名 高尾公矢、藤原由紀子、藤原由紀子、藤原由紀子  
学術フロンティア推進事業 平成17年度 研究成果報告書



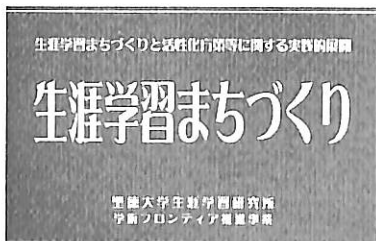
SEIHOKI UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING  
聖徳大学 生涯学習研究所

### 『地域福祉まちづくりの現状と実践的展開 - バリアフリー環境を目指して -』

(平成17年3月発行)

1. 少子高齢社会と福祉のまちづくり
2. 大学の市民活動支援と地域連携によるバリアフリーのまちづくり

高尾公矢、藤原由紀子



## 『生涯学習まちづくり』

(平成 17 年 7 月発行)

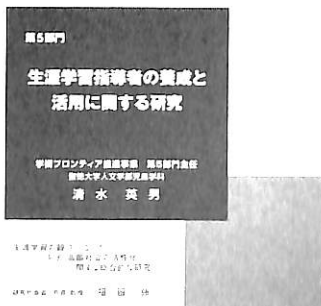
1. 生涯学習まちづくりの意義と方法
2. 生涯学習まちづくりと活性化方策に関する研究
3. 活性化方策に関する事例
4. NPO 法人全国生涯学習まちづくり協会における蓄積

福留強

内田州昭, 小玉文吾, 齊藤ゆか, 里見親幸,  
田中宏, 豊村泰彦, 古市勝也, 松澤利行,  
山田知子, 米田誠司 (ほか)

## 第5部門

平成15年度～16年度 生涯学習研究センター推進事業「平成15～16年前期研究成報報告書」  
学術プロジェクト推進事業「平成15～16年前期研究成報報告書」

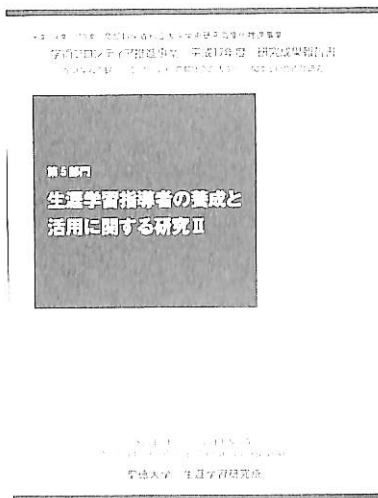


## 『生涯学習指導者の養成と活用に関する研究』

(平成 17 年 3 月発行)

1. 第5部門「生涯学習指導者の養成と活用に関する研究」の目的と5ヵ年計画
2. 平成15年～16年度研究報告

清水英男



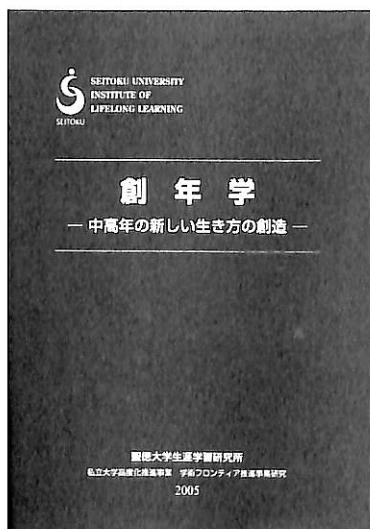
『生涯学習指導者の養成と活用に関する研究Ⅱ』

(平成 18 年 3 月 発行)

1. 短期大学のコミュニティカレッジ機能の開発に関する研究
2. 大学における生涯学習指導者養成カリキュラムに関する研究
3. 生涯学習指導者養成の IT 化に関する研究

福留強, 清水英男, 石田嘉和, 片桐章子, 齊藤ゆか, 長江龍子, 西村美東士, 水垣玲子, 内田忠平, 中村正之, 久次弘子, 廣瀬隆人, 横村久子

総括部門



『創年学 —中高年の新しい生き方の創造—』

(平成 17 年 8 月 発行)

1. 創年の意義と創年活動
2. 創年と生活経済
3. 創年と情報  
ほか

福留強, 伊藤セツ, 後田逸馬, 上條秀元, 児玉文吾, 小山忠弘, 齊藤ゆか, 立柳聡, 永島正紀, 西村美東士, 古市勝也, 宮坂いち子, 茂木和行, 山口一美



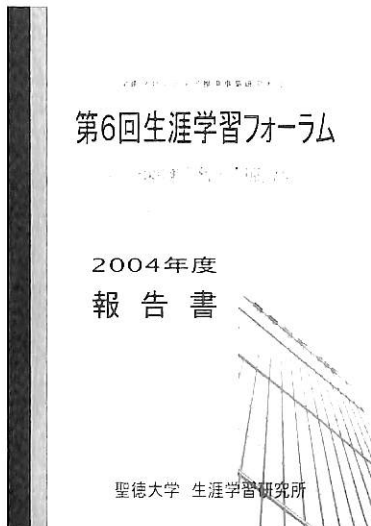
『創年学入門 ～高齢者の生きがい対策と生涯学習まちづくりネットワーク創り～』

(平成 17 年 8 月発行)

1. 中高年（創年）の地域活動の研究
2. 創年の地域活動拠点（創年のたまり場）の研究

福留強

フォーラム報告書

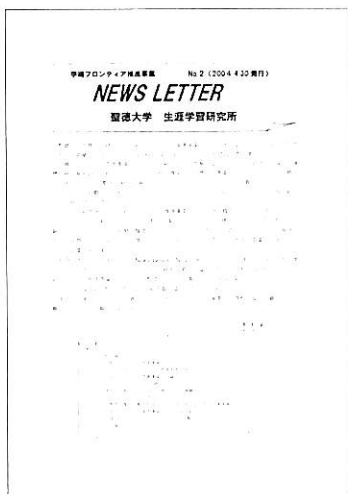


『第6回生涯学習フォーラム報告書』

(平成 17 年 3 月発行)

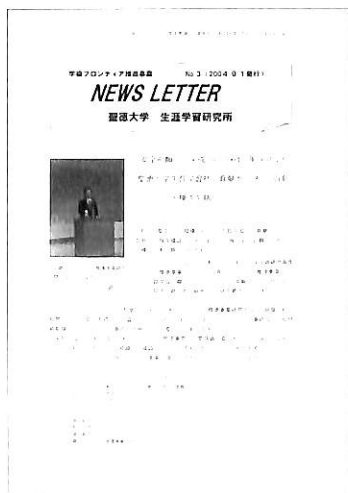
平成 16 年 6 月 27 日（日）開催

1. 基調鼎談「生涯学習の観点から『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的研究の経過と展望」
2. 分科会
3. 全体会「生涯学習の振興方策とまちづくり」



No. 2 (平成 16 年 4 月発行)

- ・ 学術フロンティア推進事業の特色と方向
- ・ 各部門の平成 15 年度の研究報告
- ・ 研究会の報告
- ・ 学術フロンティア推進事業研究員一覧
- ・ 出張報告
- ・ 生涯学習フォーラムの予告



No. 3 (平成 16 年 9 月発行)

- ・ 生涯学習，社会貢献，そしてセンター機能の現代的意義
- ・ 学術フロンティア推進事業の取り組み内容
- ・ 各部門の平成 16 年度前半の研究報告
- ・ 学術フロンティア推進事業 研究大会

平成15年度～19年度 聖徳大学学術研究高度化推進事業  
学術フロンティア推進事業研究大会

## 第7回生涯学習フォーラム

2005年度  
報告書



SEIDAI UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING  
聖徳大学 生涯学習研究所

## 『第7回生涯学習フォーラム報告書』

(平成17年12月)

平成17年6月26日(日)開催

1. シンポジウム「地域にチャレンジする女性」
2. 分科会
3. 全体会「女性のチャレンジ支援をめぐって」

## NEWS LETTER



No. 1 (平成15年11月発行)

- ・研究代表者挨拶
- ・学術フロンティア推進事業内容
- ・研究活動状況

## (7)学術フロンティア推進事業の年度別計画表

テーマ：生涯学習の観点に立った「少子・高齢社会の活性化」に関する総合的な研究

(研究代表者：生涯学習研究所 福留強)

### <第1部門>

年度別の研究内容		平成15年度	平成16年度
少子化に関する地域システムの研究	少子化、核家族化における家庭教育振興のプログラムの開発	1 家庭教育の振興に関する学習プログラムの収集 2 事例研究対象自治体の選定と連携システムの構築	1) 家庭教育の振興に関する学習プログラムの好ましい内容方法等と課題の明確化など 2 地域システム先進地現地視察
	幼・保・小学校の連携システム開発に関する研究	1 幼稚園と保育所と小学校の連携に関する実態調査	1) 幼・保・小連携の現状を把握し課題を明確化 2 事例研究対象の選定と実証的な研究システムの構築
	少子家庭の子どもの生活(衣食住)に関する研究	1) 子どもの遊具に関するデータ等を収集 2 子どもの食生活に関するデータ等を収集	1 少子家庭の子どもの遊具が与えられる環境に関する調査と分析 2 少子家庭の子どもの食生活に関する調査・分析

### <第2部門>

年度別の研究内容		平成15年度	平成16年度
少子社会における青少年の健全育成	奉仕体験と体験活動を進めるための地域と家庭のプログラム開発の研究	1 奉仕体験等の推進地域のプログラム事例の研究 現地モデル地域の視察を含む 2 家庭教育のプログラムの検討「体験」を取り上げた事例の検討	1) 長期集団宿泊による奉仕体験・体験活動に関する研究(実施自治体・少年自然の家等での事例研究)ほか
	子ほめ運動と地域の教育力の向上に関する研究	1 全国子どもをほめよう研究会との連携により「市町村において「児童生徒表彰条例」の実態を調査 2 「地域の教育力」に関する基礎研究	1 実施自治体における子ほめ運動の追跡調査 2 地域の少年団体等における大人の関わり方の研究
	団体・NPO等と自治体の連携による青少年地域活動の研究	1 少子社会における子どもの活動の現状調査 2 自治体における子どもの地域活動の現状調査	1 地域における子どもの活動プログラムの研究(伝統活動・まちづくり参加など)

### <第3部門>

年度別の研究内容		平成15年度	平成16年度
高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究	団塊世代の生きがいづくりと高齢期準備教育に関する研究	1 団塊世代の高齢期における意識行動に関する調査 2 高齢期準備教育(退職準備教育を含む)に関するデータの収集	1 実態調査や収集データ等に基づく団塊世代の高齢期の生きがいや高齢期準備教育の現状や課題の調査 2 事例研究事例自治体の選定と連携システムの構築
	高齢者の起業家養成のプログラム開発と実践に関する研究	1 高齢期対象の起業家養成プログラムを収集	1 高齢期の起業家希望に関する調査の実施と調査結果の分析
	高齢者の能力を青少年教育に生かすシステムの研究	1 高齢者の青少年教育活動に関する活用の実態を調査	1 自治体における高齢者の青少年にかかわるボランティア等に関する調査の実施と調査結果の分析による諸課題や新分野の明確化



No. 4 (平成 17 年 3 月発行)

- 聖徳大学生涯学習社会貢献センター完成
- 「子どもたちの最善の利益のために」  
塩美佐枝
- 「音楽と生涯学習」  
水垣玲子
- 学術フロンティア推進事業の取り組み内容
- 各部門の平成 16 年度後半の研究報告

<第1部門>

平成17年度	平成18年度	平成19年度
1) 家庭教育の標準的な学習プログラム「試案」を作成 2) 地域システム先進地現地視察による発展	1) 家庭教育の学習プログラムに関する学習情報提供システムの試行 2) 家庭教育の標準的な学習プログラム「試案」を試行	1) 家庭教育の学習プログラムに関する学習情報の提供
1) 望ましい幼・保・小連携システムの試案の作成ほか	1) 望ましい幼・保・小連携システム「試案」の試行	1) 望ましい幼・保・小連携システムの開発と公表
1) 少子家庭の子どもの遊具モデルを設計し製作 2) 少子家庭の子どもの食事モデル(献立表等)を作成	1) 少子家庭の子どもの遊具モデルを製作 2) 少子家庭の子どもの食事生活の実践	1) 少子家庭の子どもの適した遊具のあり方の開発と公表 2) 少子家庭の子どもの食事生活のあり方に関する研究発表会

<第2部門>

平成17年度	平成18年度	平成19年度
1. 長期集団宿泊による奉仕体験・体験活動に関する研究(モデル事業のプログラム試案の作成) 2. 親等を対象とする「体験活動」に関する意識調査	1) 長期集団宿泊による奉仕体験・体験活動に関するモデルプログラムによる地域での実践・研究	1) 長期集団宿泊による奉仕体験・体験活動に関するモデルプログラムによる地域での実践成果のまとめ 2) 地域と家庭における奉仕体験・体験活動に関するモデルプランの作成
1. 子ほめ運動推進地区における成人対象の意識調査子ども親と地域親等に関する意識の変化 2. 青少年団体と大人の関わり方の研究	1. 子ほめ条例の実践例から、「表彰システム」の研究 2. 地域の青少年育成組織に関する事例研究	1. 子ほめ運動のプログラム試案の作成。親子、地域の成人活動プログラムの作成 2. 子ほめによる実践活動の成果の報告と研究
1. 地域における子どもの活動プログラムの試案作成(団体・NPO団体との連携プランを含む)	1. 地域における子どもの活動プログラムの試案モデル自治体等により実証的に研究	1. 地域における子どもの活動プログラムの作成

<第3部門>

平成17年度	平成18年度	平成19年度
1. 団塊世代の高齢期準備教育に関する標準的な学習プログラム試案の作成	1. 団塊世代の高齢期準備教育に関する標準的な学習プログラム「試案」を試行し諸課題を把握と改善	1. 団塊世代の高齢期準備教育の標準的な学習プログラムの作成と配布
1. 高齢者の起業家養成学習プログラムの試案と教材の作成	1. 高齢期の起業家養成プログラム「試案」の試行 2. 起業家養成研修に関する通信教育の試行	1. 高齢期の起業家養成プログラムと教材の作成と公表 2. 起業家養成研修のための通信教育の稼働
1. 高齢者が青少年活動への参画に関するシステムの開発	1. 高齢者が青少年活動に参画するシステムと参画内容・方法に関する試案を試行し、諸課題の明確化と改善	1. 「高齢者が青少年活動に参画するシステムと参画内容・方法等のあり方」の作成と公表

<第4 部門>

年度別の研究内容		平成15年度	平成16年度
大学と地域の協働による生涯学習システムの構築	民・官・学及び大学と自治体を結ぶ生涯学習の内容と方法（通信教育の開発など）の開発に関する研究	1) 中高年者を対象に市民大学等による学習要求の実態調査 2) 生涯学習要求の内容を通信教育によるプログラム化に関する研究	1) 市民大学等による学習内容の力キュラムの研究（通信教育教材） 2) 通信教育を基礎とする学習の方法の開発及び通信教育の研究
	団体・NPO等との連携による高等教育機関の市民活動支援と生涯学習施策の研究	1) 市民団体・NPO活動上の悩み、支援センター現状などの課題	1) 大学における市民団体・NPO支援センター設置の現状研究、ほか 2) 市民大学のあり方に関する研究
	学習成果の活用できる民間が資格認定等による高齢者の生きがいづくりシステムの開発の研究	1) 自治体・団体等による、各種生涯学習の認定・評価に関する調査	1) 自治体やNPO・社会教育団体などを対象とし資格設定に関する調査（求める資格、必要な資格等）を 2) その調査結果の分析と新たな資格の決定
	大学と自治体の連携による地域の活性化（生涯学習まちづくり）に関する研究	1) 生涯学習まちづくりと活性化方策等に関する研究、生涯学習の推進に関するノウハウの収集 自治体、民間の事例の収集、先進地の視察等 2) 事例研究対象自治体等の選定と連携システムの構築	1) 大学の生涯学習まちづくり支援センターの設置 2) まちづくりアドバイザー養成に関する研究、プログラム試案作成
	生涯学習の推進に関する海外ネットワークの開発	1) 生涯学習の推進の海外ネットワークの構築のための組織づくり	1) 事例研究対象自治体と連携システムの構築 2) 海外ネットワークづくりの臨床的研究を行なうために海外の大学との協同研究に関する協約の実施

<第5 部門>

年度別の研究内容		平成15年度	平成16年度
生涯学習指導者の養成と活用に関する研究	短期大学のコミュニティカレッジ機能の開発に関する研究	1) 短期大学の公開講座（エクステンションプログラム）に関する実態の調査 2) 事例研究対象短期大学の選定と連携システムの構築	1) 自治体の短期大学における地域社会貢献（還元）への現状の調査 2) 短期大学における将来展望に関する調査の実施
	大学における生涯学習指導者養成に関するカリキュラムの開発	1) 大学の生涯学習指導者養成カリキュラムの収集 2) 自治体や企業等における要望調査を実施	1) 生涯学習指導者養成に関する現状や要望等を調査分析し課題を明確化
	生涯学習指導者養成のIT化に関する研究	1) 自治体が雇用している生涯学習に関する嘱託職員の実態に関して調査	1) 社会教育指導員と博物館解説嘱託員に関する研修プログラム「試案」を作成

<第4 部門>

平成17年度	平成18年度	平成19年度
<p>① 市民大学等による学習内容のカリキュラムの試案の作成</p> <p>② 通信教育を基礎とする学習の方法の開発及び通信教育のシステムの研究</p>	<p>① 中高年者を対象に市民大学等による学習内容のカリキュラムの試案による実践(通信教育教材の活用)</p> <p>② 通信教育による全国の自治体と連携した通信教育のシステムの実験(自治体・NPO協力)</p>	<p>① 中高年者を対象に市民大学等による学習内容のカリキュラムの作成(通信教育教材の作成)</p> <p>② 全国の自治体と連携した通信教育のシステムの開始(自治体・NPO協力)</p>
<p>① 大学における、市民団体・NPO関係者に関する認定資格の試案の作成</p> <p>② 市民大学における資格取得のプログラムの開発に関する研究</p>	<p>① 大学における市民団体・NPO等の支援センターに関する試案の策定とモデル事業の研究</p> <p>② 大学と連携した市民大学の生涯学習に関する認定・資格に関する講座の開設</p>	<p>① 大学における市民団体・NPO等の支援センター事業の推進</p> <p>② 生涯学習に関する認定・資格に関する講座の開設</p>
<p>① 資格取得のための学習プログラムの試案と教材の作成</p> <p>② 通信教育に関する諸条件の整備</p>	<p>① 資格取得のための学習プログラム「試案」を試行し諸課題の明確化と改善</p> <p>② 資格取得のための学習に関する通信教育の試行</p>	<p>① 資格取得支援センターに関する研究。資格取得のための学習プログラムと教材の作成</p> <p>② 資格取得のための学習に関する通信教育の稼働</p>
<p>① 生涯学習まちづくりと活性化方策の事例のまとめ 生涯学習まちづくりセンターの研究</p> <p>② まちづくりアドバイザー養成に関するプログラムの試案</p>	<p>① 生涯学習まちづくりと活性化方策の事例のまとめ 生涯学習まちづくり支援センターの試案の作成</p> <p>② まちづくりアドバイザー養成に関するプログラムの試案 モデル養成事業の実施</p>	<p>① 大学の生涯学習まちづくり支援センターの実施</p> <p>② まちづくりアドバイザー養成事業の実施と研究</p>
<p>① 生涯学習の推進のノウハウを 実践活動によって検証し(18年度も継続) 価値あるノウハウの整理・加工し分析</p>	<p>① 生涯学習の推進のノウハウを 実践活動によって検証。ノウハウを整理・加工・分析し データベース化</p>	<p>① 生涯学習の推進の推進に関して 情報を提供し相談活動への対応</p> <p>② 「生涯学習推進海外ネットワーク機構のあり方」の作成 ほか</p>

<第5 部門>

平成17年度	平成18年度	平成19年度
<p>1 短期大学のコミュニティカレッジ機能に関する中間まとめの作成</p>	<p>1 短期大学のコミュニティカレッジ機能に関する中間まとめを公開 一部実践</p>	<p>1 「短期大学のコミュニティカレッジ機能のあり方」の作成と公表</p>
<p>1 大学における生涯学習指導者養成の標準的カリキュラムの試案の作成</p>	<p>1 大学における生涯学習指導者養成カリキュラム「試案」を公表 研究会を開催</p>	<p>1 大学における生涯学習指導者養成の標準的カリキュラムの作成と公表</p> <p>2 全国生涯学習指導者養成大学連絡協議会の発足</p>
<p>1 社会教育指導員と博物館解説嘱託員に関する学習「試案」に基づく通信教育教材(案)の作成</p>	<p>1 社会教育指導員と博物館解説嘱託員等研修に関する通信教育の試行</p>	<p>1 主として高齢者を対象した自治体における生涯学習リーダー養成のための通信教育の稼働</p>

＜学術フロンティア推進事業報告シリーズバックナンバー案内＞

	タイトル	発行年月	判型	頁数
1	『少子化に関する地域システムの研究』	2004.3	A4	100
2	『韓国の平生学習とまちづくりとまちづくりの推進』	2004.3	A4	155
3	『高齢者の生きがい対策と人材活性化に関する研究』	2004.3	A4	198 (+100)
4	『少子社会における子どものための地域活動の展開』	2005.3	A4	196 (+100)
5	『生涯学習指導者の養成と活用に関する研究』	2005.3	A4	46 (+162)
6	『第6回生涯学習フォーラム報告書』	2005.3	A4	120 (+58)
7	『地域の教育力の向上と子ほめ運動の現状』	2005.3	B5	202
8	『地域福祉まちづくりの現状と実践的展開』	2005.3	A4	102
9	『生涯学習まちづくり』	2005.7	A4	323
10	『創年学 ―中高年の新しい生き方の創造―』	2005.8	A5	65
11	『創年学入門』	2005.8	A4	242
12	『仕事と子育ての両立を支援する職場環境づくり (管理者研修用テキスト)』	2005	A4	30
13	『北欧視察研修報告―北欧の子育て支援― デンマーク・スウェーデンを訪ねて』	2005.11	A4	71 (+15)
14	『第7回生涯学習フォーラム報告書』	2005.12	A4	97 (+34)
15	『生涯学習指導者の養成と活用に関する研究Ⅱ』	2006.3	A4	183
16	『中学生・高校生の育児体験学習プログラムの開発』	2006.3	A4	124
17	『定年退職前教育と生きがいに関する研究』	2006.3	A4	188 (+98)

## 【研究組織】

◎ 福留 強	聖徳大学	人文学部児童学科	教授
塩 美佐枝	聖徳大学	人文学部児童学科	教授
夏秋 英房	聖徳大学	人文学部児童学科	教授
宮坂 いち子	聖徳大学	人文学部英米文化学科	教授
清水 英男	聖徳大学	人文学部児童学科	教授
齊藤 ゆか	聖徳大学	生涯学習研究所	講師

注：◎は研究代表者

編集協力者 小池有紀(聖徳大学生涯学習研究所)

※本報告書は、平成 17 年 8 月に文部科学省に提出した中間報告書に基づき作成した

※現行の研究内容については本学研究所ホームページを参照のこと

URL: <http://hello.smilies.jp/lll-studies/>

# 市民と創る生涯学習

地域に拓かれた大学を目指して

(総括部門 研究報告書)

平成 15 年度～19 年度文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業

「学術フロンティア推進事業」

「生涯学習の観点に立った『少子・高齢社会の活性化』に関する総合的な研究」

---

2006(平成 18)年 3 月 31 日 聖徳大学 生涯学習研究所

聖徳大学 生涯学習研究所 学術フロンティア推進事業

住所：〒271-8551 千葉県松戸市松戸 1169 聖徳大学生涯学習研究所

電話：047-365-5691 Fax：047-365-5692

E-mail: [frontier@seitoku.ac.jp](mailto:frontier@seitoku.ac.jp)

学術フロンティア URL: <http://hello.smilies.jp/lll-studies/>



SEITOKU UNIVERSITY  
INSTITUTE OF LIFELONG LEARNING

教育機関として日本初のダブル取得



ISO9001 (教育の質マネジメントシステム)

ISO14001 (環境マネジメントシステム)